

令和元年度

あざれあ 地域協働事業

事業実績報告書

もくじ

事業の概要.....	2
特定非営利活動法人 しずおか LGBTQ+	6
中田・馬淵女性防災ネット.....	14
ふれあいサポートネット「ふわっと」.....	18
静岡県東部女性犯罪被害者支援 link	23
特定非営利活動法人 Safety First 静岡	27
伊豆とこどもとわたし達	32
Win-Win プロジェクト	35

事業概要

【事業の目的】

静岡県内の地域で活動している団体が、地域の自治組織、民間団体、教育機関、企業、市町等と協働して、男女共同参画の理解を促進するために行う事業を、静岡県から委託を受けて支援をした。

【募集内容】

A～Cの事業を、ア～オのテーマで実施する団体に対し、上限15万円の事業費を支援。

事業内容

- A 地域において男女共同参画を進める研修会、講演会、意見交換会等の開催
(開催規模は、参加者数30人以上、開催時間は2時間程度を目安とする)
- B 男女共同参画啓発誌等の作成・発行
(製本をし、発行部数は200部以上とする)
- C 男女共同参画の視点を入れた地域の課題解決のための調査・研究

テーマ

- ア 政策・方針決定の場やあらゆる職域への女性の参画拡大
- イ 男女双方にとってのワーク・ライフ・バランスの実現
- ウ 男女共同参画推進による地域力の強化
- エ 人権の尊重による男女間の暴力の防止と格差是正
- オ 女性の活躍推進

【事業の流れ】

5月

5/20(月) 募集開始

5/25(土) 事業説明会 会場：あざれあ生活関連実習室

6月

6/20(木) 応募締切

7月

7/2(火) 書類審査

7/26(金) プレゼンテーション審査
会場：あざれあ多目的実習室

8月

8/3(土) 事業実施説明会(採択団体対象)
会場：あざれあ生活関連実習室

8/30(金) 事業計画書提出期限

9月～1月 事業実施

2月

2/25(火) 事業報告会
会場：あざれあ第3会議室

【採択について】

令和元年7月26日(金)にあざれあ地階多目的実習室において、10団体に対し、最終審査のプレゼンテーションを実施した。審査委員長の日詰一幸さん(静岡大学教授)を始め、4人の審査員で審査した結果、7団体が採択された。審査基準は以下の通り。

- 1 男女共同参画の視点をきちんと持っているか
- 2 地域の協働事業であるか
- 3 ユニークで新たな視点、発想をもった事業か
- 4 事業の効果が広く市民に及ぶ事業かどうか
- 5 事業後も団体の活動が継続、発展し広がる事業か
- 6 収支予算書の積算根拠が明確か



質問をする日詰先生



【報告会】

令和2年2月25日(火)にあざれあ4F第3会議室において、事業実施の報告会を行った。実施団体7団体が、それぞれの事業について報告10分行い、その後、質疑応答を行った。

この日、審査委員長の日詰先生は、大学入試のため、出席できず、事前に送付した、各団体の報告書をもとに、コメントが寄せられた。

コメント抜粋

報告された7つの団体が、これまで地域で培ってこられた男女共同参画に関わる様々な活動の経験を生かして、独自性のある事業を展開してきたことが良く理解できました。

県内各地において、この助成金を使った事業が効果的に行われていることは男女共同参画の施策を効果的に推し進める上で、極めて大切なことであると思います。

今回の報告会では、「女性に対する暴力」、「性的マイノリティ」、「男女共同参画の視点からの地域防災」、「ワーク・ライフ・バランス」、「女性の就業」、「アンガーマネジメント」といったテーマでの報告がなされました。どの事業も地域での活動の経験が生かされているため、参加者に訴えかけることも多く、満足度も比較的高い結果が得られています。しかし、中心となる団体が地域の他の機関や団体と協働することにより生み出される効果に



プレゼンを聞く審査員

については、さらに改善の余地があるように感じます。協働事業においてとても大切なことは、その枠組みに入った機関や団体のそれぞれの特性がうまく活かされ相互に補完され、事業全体にその相乗効果が及ぶことです。報告書から、そのような効果をさらに生み出す余地があったのではないかという印象を持ちました。今後は、今回の事業で構築された良い関係性をさらに発展させ、それを地域の事業に反映させる工夫をしていただくことを期待します。

さらに今後検討していただきたいことは、今回の事業の成果を足掛かりにして、フォローアップをどのように展開するのか。今回の事業を次の事業にどのように活かしていくのかといった考察にも取り組んでいただくということです。「協働」という枠組みをさらに生かした活動を展開するためには、今後どうしたらよいか、検討していただく課題は多いと思います、とのことでした。



報告会会場の様子

実施団体一覧

No.	令和元年度実施団体名	代表者名
1	特定非営利活動法人 しずおか LGBTQ+	細川 知子
2	中田・馬淵女性防災ネット	井上 美佐恵、鈴木 恵美子
3	ふれあいサポートネット「ふわっと」	榊原 真理
4	静岡県東部女性犯罪被害者支援 link	磯部 三恵
5	特定非営利活動法人 Safety First 静岡	横山 由佳子
6	伊豆とこどもとわたし達	加藤 章子
7	Win-Win プロジェクト	橋本 恵子



コロナウィルスの影響で、報告会の開催が危ぶまれた。冒頭でマスク着用をお願いをしている事務局長。



報告会発表の様子

事業実施日	連携・協働団体	会場
2019/11/17、12/16	藤枝市男女共同参画・多文化共生課	藤枝市文化センター
2019/9/2～11/30	静岡市立中田小学校、子育てサロン スマイルママ、駿河区役所地域総務課 地域防災係	静岡市立中田小学校、伊河麻神社 駿河区役所、立正佼成会静岡教会
2019/9/5～11/15	ゆうサポート	浜松市立神久呂中学校 浜松市入野中学校他
2019/11/30	一般社団法人ひ・まわり ありまの会	三島市市民活動センター
2019/11/9～2020/1/25	Linkers Shizuoka	アイセル21、あざれあ、
2020/1/11、1/13	三島「親育ち」を応援する会、稲生沢保育 園父母会、静岡県立下田高校、伊豆市ママ スタッフ、静岡県立伊豆中央高校、伊豆市 こども課	下田市稲生沢保育園、修善寺会館
2020/1/13	菊川市地域支援課	菊川市市民協働センター



報告会発表の様子2



報告会発表の様子

特定非営利活動法人 しずおか LGBTQ+

藤枝市における性的マイノリティの 居場所づくり事業およびヒアリング調査 協働先：藤枝市男女共同参画・多文化共生課

【事業目的】

近年、性的マイノリティへの関心が非常に高まり、行政の施策としても全国的な広がりを見せている。しかしこのように関心が高まり啓発が進む一方で、啓発後に必要となる「居場所」や「相談」などの事業実績は全国的に不足しており、現在、喫緊の課題となっている。静岡県内においては、これまで各地の任意団体やNPO法人が、居場所や相談先となる受け皿としてその役目を担ってきたが、今後は行政と共に実施することで、より自治体における男女共同参画社会の実現が具体化されていくのではと期待している。

これらに関して、現在当法人では、県内初となる行政が実施する性的マイノリティの居場所づくり事業「2019年度静岡市性的少数者居場所づくり事業〈にじいろカフェ〉」を静岡市より委託され運営しており、これまでの活動で培ってきた経験を活かしている。この事業には、毎回藤枝市を中心とした志太榛原地域の性的マイノリティ当事者が複数名参加しており、志太榛原地域に対象者が存在していることが明らかになった。さらにその当事者から、地元での居場所事業実施の要望を受けており、藤枝市と協働で居場所づくり事業の実施と当事者へのヒアリング調査を実施したい。

藤枝市における性的マイノリティの居場所づくり事業は、性的マイノリティの人権問題を解決してだけでなく、地方での男女共同参画を進める手堅い一歩と考えられる。

事業内容

「性的マイノリティとそうかもしれない人のための交流会 & 藤枝市職員によるヒアリング」

参加費無料、申込み不要、ニックネームでの参加可

①藤枝市の性的マイノリティ（とそうかもしれない人、家族・友人・パートナー）を対象に、交流会を開催（1回）。同時に藤枝市職員によるヒアリングを実施し、事業化実現のための参考となる参加者の声を聞き取る。参加対象者を藤枝市民に限定せず、志太榛原地域とし、対象を広域にすること参加のしやすさを考慮した。

②ヒアリング調査後に藤枝市との意見交換会を実施

【事業内容】

「性的マイノリティとそうかもしれない人のための交流会 & 藤枝市職員によるヒアリング」

参加費無料、申込み不要、ニックネームでの参加可

	日 時	会 場
①	11月17日(日) 14:00~17:00	藤枝市文化センター 3階 第一会議室
	対象者:性的マイノリティ当事者とそうかもしれない人、家族・友人・パートナーで居住地は問わず、主に志太榛原地域の人を対象	
	参加人数:当日参加者7名(20代~60代)、法人スタッフ3名 藤枝市職員2名(男女共同参画・多文化共生課)	
②	12月16日(月) 13:00~14:30	藤枝市役所庁舎 男女共同参画・多文化共生課内会議室
	対象者:①に参加したスタッフ	
	参加人数:法人から2名、藤枝市職員から1名(男女共同参画・多文化共生課)	

<事業の流れと役割(計画)>



①藤枝市の性的マイノリティ（とそうかもしれない人、家族・友人・パートナー）を対象に、交流会を開催（1回）。同時に藤枝市職員によるヒアリングを実施し、事業化実現のための参考となる参加者の声を聞き取る。

参加対象者を藤枝市民に限定せず、志太榛原地域とし、対象を広域にすること参加のしやすさを考慮した。

②ヒアリング調査後に藤枝市との意見交換会を実施

【事業の成果】

当日の流れや様子

①より

交流会がはじめての人でも参加しやすいよう事前申込み不要にしたことで、当日まで参加人数や傾向がわからなかった。しかし、告知から当日までの期間に何件か法人に問い合わせを受けていたので、ある程度の広報はできているように感じた。問い合わせ段階で参加表明をした当事者は来場しなかったが、当日は7名の参加があり、想定通りだった。

ゆったりとした雰囲気が始まったこともあり参加者もスタッフも終始笑顔でコミュニケーションを取った。会のルールとして読み

合わせをした「グランドルール」のとおり、他者否定を持ち込まずに進んだ。全員がほぼ均等に発言していた。休憩をはさんで実施した市の職員によるヒアリング調査でも、引き続きスムーズに発言ができたように感じる。2グループに分かれてフリートークをする方法をとったので、途中で参加者を入れ替えながら全体的な交流を図った。話された内容は参加者の特定ができないよう配慮して抜粋し、以下に記した。

【交流会参加者について】

- ・全員が藤枝市に關係（居住者6名、1名は職場が藤枝市内）
- ・4名が当事者、友人と配偶者がそれぞれ1名（非当事者）
- ・全員が交流会にはじめて参加した（どこで知ったか）
- ・回覧板でチラシを見た知り合いから教えてもらった
- ・Twitter で知った
- ・しずおか LGBTQ+ の Facebook で知った（何を期待してきたか）
- ・地元の自治体が交流会を開いてくれることが驚きで、嬉しくて参加した
- ・自分の経験が誰かのためになれば、と思っで参加した
- ・自分以外の LGBT 当事者を知らないから、会ってみたかった
- ・自分のセクシュアリティを確認したかった
- ・市の人に意見を言いたい（悔しかったこと / 期待すること）
- ・これから支援する側になりたくて（フリートーク）
- ・これからも市でやってほしい（安心感がある）
- ・小中学生や高校生にも情報が届くよう工夫してはどうか

- ・婚姻関係になってからパートナーからカミングアウトされた
- ・相談先を作ってほしい、あるならわかりやすくしてほしい
- ・自認は進路に影響する、若い世代への啓発をしてほしい
- ・ここに来るまでの緊張が自分の中でしたかったです
- ・またこのみんなで会える場を作ってほしい
- ・自分で活動を始めたいと考えている
- ・職場での居心地の悪さがあるが、あきらめている
- ・一部の友人にしか自分のことを打ち明けていない

②より

交流会 & ヒアリング調査に参加した法人スタッフ2名および藤枝市職員1名で振り返りをし、今後について意見交換をした。

（運営に関して）

- ・藤枝市に關係する参加者が多く嬉しかったが、他の地域の周知状況が気になった
- ・事前申込み制にしないメリットはあるが（参加のハードルを下げる）、会場のサイズを決めるための目安がなく難しかった
- ・大きな会議室よりも和室や小さめの部屋の方が、環境づくりがしやすいと感じた
- ・交流会のようなところにはじめて参加したという人ばかりで、緊張している参加者が多かったが、お茶菓子等用意しておいたことで和む雰囲気づくりのきっかけになった
- ・交流会のスタッフは、開催地域の人が良いのかその他の人が良いのか、検討が必要だと感じた

（参加者に関して）

- ・一組のカップル以外はひとりでの参加だった。聞き取りをしたところ、身近に当事者の仲間があまりいないことが分かった

- ・当事者だけでなく、関わっていきたい人や家族に当事者がいる人が参加していた
- ・年齢も職業も様々だったが、セクシュアリティも様々だった。そのことで話題が広がり参加者自身が「勉強になった」と言っていた
- ・交流会の定期開催を求める声が多かった
- ・市の職員が直接関わってくれたことで、自治体の動きに関心を深めたようだった
- ・自分たちの声が届くかもしれない（事業化されるかもしれない）という期待感をもってヒアリング調査に参加してくれていた
- ・「自分たちの居場所」を作りたいという強い思いが伝わってきた

【今後の展望】

顕在化しにくい当事者のニーズを地域に暮らす当事者から直接聞き取れたことで、事業化への根拠を示すことができたと感じた。「本当にこの市（地域）にいるのか（いないのではないか）」という意見にも、本事業により具体的な対応ができる。今後も藤枝市担当課

と協働しながら進めたいと考えている。事業化までは当法人が志太榛原地域の当事者の抛りどころになることで、途切れることのない支援を実現したい。

本事業の実施にあたり、志太榛原地域の自治体にチラシの配架などでご協力いただいた。これを機に地域全体で協働できるよう、「繋げる」役目を当法人で担っていこうと考えている。

【その他】

温かい雰囲気の中で参加者たちが自分について語ることができており、語られる内容について真摯に共感したり議論する様子があった。また協働した藤枝市職員も参加者の言葉に寄り添うようにヒアリングを進めてくれたことで、「自分たちもここ（地元）にいたいんだ」と参加者が思ってくれたように感じた。安心して暮らせる地域づくりの大切さを痛感した。

【資料1】

グラウンド・ルール（本日のおやくそく）

この交流会&ヒアリング調査には、いろいろな背景をもつメンバーが参加しています。ジェンダーやセクシュアリティ、国籍、健康状態、年齢、カミングアウトの状況など、それぞれのちがいを超えて、みんなが安心できる場所を一緒に作りましょう。

①ここには色々なジェンダーやセクシュアリティの人がいる。

それを決めたい人もいれば、決めたくない人もいます。お互いのあり方を尊重しましょう。

②言いたくないことは言わないでOK

学校名や職業、戸籍上の名前、性の有り様、恋人の有無など、言いたくないことは言わないでもOKです。無理せず参加しましょう。また、せっかくの場なので、言葉にできることは話してみるのもいいでしょう。

③相手の性別を決め付けない。

「彼」「彼女」ということばに敏感になりましょう。そう呼ばれたくない人もいます。

④「いや」と言っていていいよ！

話したくないことを聞かれたり、話を聞いていてしんどくなったりしたら、席をはずしても構いません。またスタッフに声をかけてくれてでも構いません。

⑤正しさはひとつじゃない

みんな、日々をサバイバルしています。カミングアウトのこと、恋人のこと、性別のあり方のこと、手術 やホルモン治療の有無など、「こうすべき！」という考えかたを押し付けるのではなく、お互いのペースや方法を尊重しましょう。

⑥個人情報の取り扱いには注意！

今日きいたこと、特に個人が特定されそうなことに関しては、みだりに他人に話したり、ブログに書いたりしないようにしましょう。

性的少数者とそうかもしれない人の交流会&ヒアリング

【資料2】

日時 2019.11.17 14:00～17:00

会場 藤枝市文化センター 第1会議室

【ヒアリングの趣旨について】

今回、本市において交流会の共催を行うこととしたのは、本市における今後の性的少数者の皆さんに対する施策を検討する上でのご意見を聴取する場としたいと考えたことが一つの理由となっています。

藤枝市における性的少数者に関する施策については、昨年度より市民に対する理解促進の啓発を行っている程度であり、具体的な取組は実施していませんが、性別や年齢などにかかわらず誰もが暮らしやすい社会の実現に向け、性的少数者の皆さんへの施策も考えていかなければなりません。

今回のヒアリングで、皆さんからの率直な意見を伺い、本市として今後何をしていくべきかを考えていきたいと思えます。

【ヒアリングの内容について】

- 1 人との付き合いの中で感じる不自由などについて
 - (1) 家族との関係
 - (2) 友人との関係
 - (3) 仕事上で
 - (4) その他の人間関係（当事者同士の関係など）
- 2 社会生活を営む上で感じること（良い面も含め）
 - (1) 一般的な日常生活
 - (2) 学校生活に関すること
 - (3) 仕事・就労に関すること
 - (4) 医療に関すること

3 性的少数者に対する理解は進んでいると思いますか？

○思う理由・○思わない理由（メディアの取り扱いや報道をどのように感じるか）

4 当事者の皆さんが「生きやすい社会」をつくるために必要なこと（特に行政）

(1) 当事者が生きやすい社会をつくるためにどんなことが必要だと思いますか

(2) そのために行政ができること、行政に望むことがあれば教えてください

1 人との付き合いの中で感じる不自由などについて

(1) 家族との関係

【不満】

・「女の子は女の子らしく」という家族（親、祖父母、兄弟）からの決めつけ、押し付けが不満だった

・年齢が高くなるにつれて、決めつけ・押し付けは強くなる

【不安】

・自立してからでないとカミングアウトできないと思っていた

・中高生の頃は、「親に否定されたら生きていけない」と感じていた

【感謝】

・親、友人にすんなりカミングアウトを受け入れられたことに感謝している

(2) 友人との関係

【アウトティング】

・言っていないはずの人が自分のセクシュアリティを知っていた

→不信感につながる

【カミングアウト】

・言いたくない、打ち明けたくない人から「カミングアウトしたほうがよい」と強要されることもある。

・その人に伝えるかは、わかってもらえるかどうかで決める。言ったところで理解してもらえないと思えばカミングアウトしないし、他人を認めてくれる人であれば言える

↓

言いやすい環境になることと、積極的に伝えるかは別問題

(3) 仕事上で

・ずっと仕事を続けていくと考えると、職場の人にはカミングアウトできない。やめてからは言うことができた。

(4) その他の人間関係（当事者同士の関係など）

・トランスジェンダーなど、見た目でも明らかに分かるとカミングアウトの問題がついてくる

・性的少数者の問題は、ジェンダーではなく人権の問題

2 社会生活を営む上で感じること（良い面も含め）

(1) 一般的な日常生活

・いくら説明しても理解できない人は一定数いる

知識として持ってもらふことと、心から理解することは違う

(2) 学校生活に関すること

【制服・服装について】

- ・制服のスカートが嫌でハーフパンツをはいていた

【周りの理解が必要】

- ・学校の教師、保護者、子どもたち向けのセミナーがあればよい
- ・先生たちには現状を知ってほしい。セミナーでなく交流会に来てほしい

【学校のカリキュラムに入れる】

- ・性教育の中にカリキュラムとして取り入れる必要があるのでは
- ・静岡県では、教員向けのEラーニングが始まる予定（細川さん）

(3) 仕事・就労に関すること

【職場での不利益】

- ・勤務する地域での格差を感じる（理解など）
- ・家の近くで働くことは難しい、諦めている。
- ・勝手に性別を決めつけられてしまうことがあった。

【カミングアウト・アウティング】

- ・履歴書の性別欄に抵抗を感じる
- ・勤務中に性別を変えたので、言いたくない人にも伝わってしまう

【よかったこと】

- ・保育の仕事をしていた時に、カミングアウトしてくれたことに保護者から感謝の手紙をいただいたことがある。

(4) 社会の制度や医療に関すること

【性別欄等に関すること】

- ・戸籍などの性別欄の必要性再考を。必要性のないものは削る
- ・以前、印鑑証明の性別を空欄で出したら、記載を強要された

【パートナーシップ制度】

- ・制度の創設に力を入れてほしい
- ・賃貸物件は、女性同士のカップルだと大家さんの許可がおりにくい
そういう部分でのメリットも大きい。

【医療】

- ・医療の地域間格差を感じる。ホルモン治療が必要であっても、田舎だと治療ができることをオープンにしている診療所自体が少ない。

身近に利用できるクリニックがほしい。情報もほしい。

3 性的少数者に対する理解は進んでいると思いますか？

○思う理由

- ・昔に比べれば大きく進んでいると感じる

○思わない理由

- ・当事者が発信していかないと浸透しない、わからないことも多い

【年配層の意識】

- ・年代の高い人のほうが差別的な表現をしがち。これは意思でどうこうなるものでもない
- ・親が子供に偏見を教えてしまう。今の子どもが偏見を教える親にならないようにすることが必要

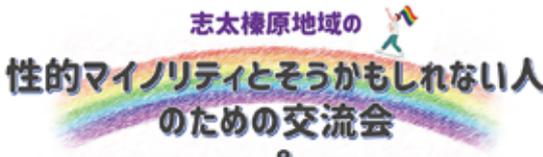
【さらなる啓発】

- ・子どもに対する意識の浸透。子どものほうが抵抗なく受け入れる
- ・父親学級・母親学級など、親になるタイミングでのレクチャー
(メディアの取り扱いや報道をどのように感じるか)
- ・藤枝市の情報誌を見たときにうれしく感じた
- ・当事者は全員がオープンにしたいわけではない。あえてオープンにしない人もいる。
- ・「いないもの」とするのではなく「必ずいるもの」として扱ってほしい

4 当事者の皆さんが「生きやすい社会」をつくるために必要なこと（特に行政）

- ・居場所づくりのような取組を定期的で開催してほしい
- 今回も行くまで勇気がいったし、来たくても来られない人がいる
- ・集まりをまだ知らない人もいないのか。周知方法の検討を
 - ・若者、高校生などに届くような発信。Facebook ではなく twitter の活用を
 - ・広報の方法を検討してほしい。企業向け、学校向け、親向けなどターゲットを広げるとよい。
 - ・相談窓口があるとよい。電話ではなく面談が良い。電話だと悩みがどのジャンルに入るかわからない。
 - ・相談窓口を作ったら周知させることが必要。

志太権原地域の



**性的マイノリティとそうかもしれない人
のための交流会
&
藤枝市職員によるヒアリング**

多様な生き方が尊重される社会の実現に向けて、
皆さんの「生の声」を聴かせてください。

日時：令和元年11月17日(日)14:00~17:00
会場：藤枝市文化センター3階 第1会議室

※ 参加費無料
※ 申込み不要

【ご参加いただける方】

性的マイノリティ当事者やそうかもしれない人
 性的マイノリティのご家族・ご友人・パートナー
 年齢・居住地は問いません(藤枝市在住でなくてもご参加いただけます)

ニックネームでの参加も可能です。お気軽にお越しください

 運営：特定非営利活動法人しずおかLGBTQ
共催：藤枝市男女共同参画・多文化共生課
(お問い合わせ) 054-643-3198

この事業は、令和元年度あざれあ地域協働事業の助成によるものです

中田・馬淵女性防災ネット

地域の防災力を高めよう!!

協働：スマイルママ・静岡市立中田小学校

駿河区役所地域総務課 地域防災係

【事業目的】

3年間活動をしてきて、地域に少しずつ防災の意識が高まってきたと思う。しかし、いまだに防災に関わるのは年配の男性が主体で、若い世代や小中学生の防災への意識が極めて低いように思う。地域の避難訓練への参加も子育て世代の若い人たちが最も少ない現状です。

そこで今年度は地域の小学校と協働し、防災の授業や私たちの講座を開いて小学生の防災意識を高めたい。「大人がやってくれる」という受け身ではなく、災害時には年齢、性別に関係なくそれぞれができることをやる。男性だけでなく女性も、関わるのが大切ということ意識づけていきたい。

さらに小中学生の子どもを持つ親たちや、若い男女にも参画を呼びかけて、災害が起きる前から若い力と考えを、もっと発揮してもらおうようにしたい。

0歳児のママに災害時リスクを伝えたり、非常持ち出しバッグを背負って、重さを実感してもらい、自分や子ども、家族を守るためにどんなことが必要か考えてもらう。

【実施内容】

第1回目

非常時でもポリ袋を使用して、いつもどおり

の食事が作れることを体験してもらうことを目的に、実際に自分たちの手で防災食作りの実習を行った。

実施日時：令和元年9月2日（月）

10：00～12：00

実施場所：静岡市立中田小学校体育館

対象者：小学校4年生児童

参加人数：120名

連携・協働団体等名称：静岡市立中田小学校、駿河区役所地域総務課 地域防災係

第2回目

子育て支援 スマイルママ講座

子どもを連れての避難のリスクを知ってもらうことを目的に0歳児をもつパパママに、子どもを連れての避難の講座を開催した。



2019.9.4 スマイルママ

実施日時：令和元年9月4日（水）

10：00～

実施場所：伊河麻神社集会所（静岡市駿河

区稲川 1-10-15)

対象者：0歳児とその保護者

参加人数：32名

連携・協働団体等名称：子育て支援 スマイルママ

第3回目 **駿河区を応援したい(隊)人を増やします♪**

子育て世代のための防災講座(駿援隊)

駿河区と連携し、講座参加者と連合自治会長らにポリ袋を使った食事作りの紹介を目的に、防災食パッキングの実習を行った。

実施日時：令和元年9月21日(土)

9:30～12:30



2019.9.21 駿援隊.

実施場所：静岡市駿河区役所3階ホール(静岡市駿河区南八幡町10番40号)

対象者：駿河区在住の子育て世代(中学生以下の子の保護者)で、地域コミュニティに関心のある方

参加人数：45名

連携・協働団体等名称：駿河区役所地域総務課 地域防災係

第4回目

災害時のトイレの講座

災害時のトイレについて事前の準備や情報を住人に知ってもらうことを目的に、自治会の防災訓練を兼ねて災害時のトイレについての講座を開催した。

実施日：令和元年11月24日(日)

実施場所：立正佼成会静岡教会(馬淵三丁目)

対象者：馬淵三丁目町内の住人の方々

参加人数：90名

連携・協働団体等名称：駿河区役所地域総務課 地域防災係

第5回目

若い世代と地域に防災の大切さを伝える講演会

地域参観日を利用し、学校・家庭・地域の連携の大切さを知ってもらうことを目的に、小学生児童の保護者と地域の方々に、講師を招いて防災の大切さを伝えるために、講演会を開催した。



実施日時：令和元年11月30日(土)

11:30～12:20

実施場所：静岡市立中田小学校体育館(静岡市駿河区中田2丁目14番1号)

対象者：中田小学校児童の保護者と地域の住人の方々

参加人数：80名

連携・協働団体等名称：静岡市立中田小学校、駿河区役所地域総務課 地域防災係

第6回目

小学校講座を通して防災力パワーアップカード作り

カードにシールを貼ってもらったり、記入することによって家族で防災について話し合う



2019.11.30 中田小学校講演会

きっかけ作りをすることを目的に、応援カードを500枚作成した。

4年生の授業として2回の防災講座で学んだことを少しでも実行していけるように、応援カードを他の学年でも活用してもらい、自治会の防災訓練への参加を増やす。各自治会長に各町内会で行う防災訓練に、カードを持って参加してきた子ども達に、ご褒美シールを貼ってもらうようお願いした。

【成果】

今年度の事業の中で、特に小学校の授業に参加するという事に重点を置いた。中田小学校の4年生の社会科授業（安全なくらしとまちづくり）単元として、駿河区役所地域防災係と連携して、第1回目防災教室を6月に開催した。

総合授業の2時間を使って、第2回防災教室を行った。防災食づくりで、災害時の食事と水の大切さを感じさせることができた。子ども達からは家の人に教えたい、家でも作ってみたいなどの感想があり、普段の作り方とは違っておいしくできることが驚きのようなだった。第1回目で学習した水の大切さは、食器を汚さないことで、実感させ

ることができた。防災カードにシールを貼っていき、最後に自分の地域の防災訓練に参加することを呼びかけた。その結果、各自治会からカードを持って参加する小学生が増えたと報告があった。子ども達とその家族と一緒に参加するきっかけ作りができた。その後、地域参観日を利用して、保護者、地域の皆様に外部講師を招いて講演会を開催した。アンケートには保護者だけでなく教員からも、災害時には学校と地域、家庭が連携していくことが大切で、事前の話し合いや準備が必要であるなど、多くの感想が寄せられ、子どもと真剣に話し合い、考える機会を作ることができた。

【今後の展望】

小学校の授業や講演会をとおして、家庭、地域、学校が連携をとれるように、パイプ役に少しでもなれたらとおもう。

小学生をはじめ若い世代が防災訓練に関心を持ち積極的に参加、参画してもらえるように活動していきたい。

また、災害時のトイレ問題は個々にとっても地域にとっても、それ以上に女性や子ども、高齢者には一番不安で心配な問題だと思う。今後も自主防災会や家庭での準備、備蓄の必要性を伝えていきたい。



パッケクッキングの様子

ふだんから家族と防災について
話し合ったり
地域の人たちと協力し合って
災害の時には
自分のできることを
がんばってやりましょう

令和元年度 あざれあ地域協働事業の助成金で作りました。
中田・馬淵女性防災ネット

防災カレベルアップ!!



レベル1 防災こうざ	レベル2 パッキングクッキング	レベル3 町内の避難訓練参加

組 氏名 _____

配布カードおもて：2回の授業と地域の防災訓練に参加することでシールがもらえる

緊急連絡 (きんきゅうれんらく) カード

名前 _____

住所 _____ 電話 _____

わたしの大事なこと

誕生日 (たんじょうび) _____

ふだん行く病院 _____ 電話 _____

血液型 (けつえきがた) _____ 型 Rh _____ + _____ - _____

病歴 _____ 薬 _____

アレルギー _____

避難 (ひなん) する場所

① _____

② _____

家族とはなればなれになった時の

集まる場所 _____
(例: 当校会の時計の位置に●印から30分待っている)

連絡先① _____ 電話 _____

連絡先② _____ 電話 _____

連絡先③ _____ 電話 _____

連絡先④ _____ 電話 _____

※お父さん、お母さんの付いた電話番号の他に、仕事先の電話や親せきの電話でもいいよ

ぼくのわたしの7か条

自分が助かるために大事だと思うことを書いておきましょう!

① (例) まずは身を守る行動

② _____

③ _____

④ _____

⑤ _____

⑥ _____

⑦ _____

配布カードうら：家族と一緒に話し合っ、必要なこと・勉強したことを記入する

ふれあいサポートネット 「ふわっと」

中学生のためのワーク・ライフ・バランス

連携・協働団体：ゆうサポート

【事業目的】

当団体の主催する、次世代を担う中学生が、命の大切さや人との関わり、親との関係を乳幼児親子とのふれあいを通して学ぶ「ふれあい体験（中学3年生を対象に、地域の赤ちゃん親子さんが学校に出向き、中学3年生とふれあう体験）」を行う前に、中学生が子育てや家庭生活に対して持つジェンダーバイアスについて考えるため、本事業を企画した。

特に、将来ワーク・ライフ・バランスのとれた生き方を選択し、多様性のある働き方を目指すために、大人になってからではなく、現在中学生自身が持つ「アンコンシャスバイアス」に気づき、無意識の偏見を意識することで男女共同参画の視点の重要性を学ぶことを目的とした。

【事業内容】

赤ちゃんとのふれあい体験授業を行う中学3年生を対象に事前学習として、「ワークライフバランス」を学ぶワークショップを行った。1時限(50～60分)

【事業の成果】

「ふわっと」で開催している「赤ちゃんとのふれあい体験」の事前授業として実施していただけるよう学校にお願いしました。中学3年生の2学期に公民で男女共同参画社会の学習をしているので、知っている生徒も多く理解しやすかったようです。生徒たちは、性別的役割分担意識を持っていないようで、周りから言われる「男だから・・・女だから・・・」という言葉が偏見であることや、違いのある人たちをなんとなく差別している自分に気づく生徒も多かったです。今回は、赤ちゃんをお世話するのに適した人は？と、赤ちゃんを育てるのに大切なものは？という2つについてグループワークをしましたが、家庭の中

ふりがな	学年	性別	所属校	氏名
乳幼児氏名	年	月	日	参加希望校の〇(複数可)
ふりがな	学年 <td>性別 <td>所属校 <td>参加希望校の〇(複数可)</td> </td></td>	性別 <td>所属校 <td>参加希望校の〇(複数可)</td> </td>	所属校 <td>参加希望校の〇(複数可)</td>	参加希望校の〇(複数可)
乳幼児氏名 【おまようだい】	年	月	日	参加希望校の〇(複数可)
参加保護者氏名	TEL	参加希望校の〇(複数可)		
住所	FAX	参加希望校の〇(複数可)		
メールアドレス	参加希望校の〇(複数可)			

ふわっとチラシ 31年度ちらし

実施日時	会場	参加者
9月5日(木) 10:30～12:20	浜松市立八幡中学校	3年生 113名(4クラス)
10月2日(水) 10:00～12:20	浜松市立成中学校	3年生 178名(6クラス)
10月16日(水) 10:30～12:20	浜松市立神久呂中学校	3年生 83名(3クラス)
10月17日(木) 13:20～15:10	浜松市立北浜東部中学校	3年生 152名(5クラス)
10月23日(水) 10:30～12:20	浜松市立浜北北部中学校	3年生 186名(6クラス)
10月30日(水) 10:00～12:20	浜松市立入野中学校	3年生 223名(8クラス)
11月6日(水) 10:30～12:20	浜松市立篠原中学校	3年生 132名(4クラス)
11月7日(木) 10:30～12:20	浜松市立北星中学校	3年生 182名(6クラス)
11月14日・15日 13:20～14:10	浜松市立積志中学校	3年生 221名(8クラス)

で母親や祖母の家事育児負担が当たり前ではないことや愛情やお金、健康など、どれも大切だと気付くことができ、将来の自分のワーク・ライフ・バランスを考えるきっかけとなったようです。



神久呂中学校



積志中学校

【今後の展望】

「ゆうサポート」との協働ということでしたが、私たち「ふわっと」のスタッフも共に男女共同参画を意識して、家庭内での男女の在り方やそれぞれの働き方も考えるようになりました。生徒たちも学校の授業だけではなく男女共同参画を理解することが難しいので、ワークショップ形式の学習は、より理解を深めるために必要であると感じました。そして、この義務教育の期間に、ワーク・ライフ・バランスという将来の生き方を考える時間は、今後も続けていきたいと思ひますし、少しでも多くの学校で実施できれば、男女共同参画社会の目指す「一人ひとりが幸せに生きることができる社会」につながるように考えます。



思わず笑顔がこぼれる



積志中学校の板書



浜北北部中学 _ 講義の様子



北浜東部中学 _ 講義の様子



北浜東部中学 _ 板書の様子

【学習指導案】

中学生のための「ワーク・ライフ・バランス」

1. 学習の目的

乳幼児親子との「ふれあい体験」の事前学習として、中学生が子育てや家庭生活に対して持つジェンダーバイアスについて考え、中学生自身が「アンコンシャスバイアス」に気づき、無意識の偏見を意識することで男女共同参画の視点の重要性を学び、将来ワーク・ライフ・バランスのとれた生き方ができるようになることを目的とする。

2. 実施(指導)計画

令和元年9月5日～11月14日 浜松市内の中学3年生の各教室

所要時間：50分間

3. 準備物

生徒一人に一枚のA4の資料(事前に学校側にて生徒の人数分を印刷)

時間	学習活動(学習内容)	指導者の動き	留意点・他
3分	導入 講師挨拶と自己紹介 学習の目的と内容の説明 講師は生徒全員にA4の資料を配る		担当の先生は、生徒の人数分の資料を印刷して、各クラスにご用意ください
3分	講師は学習シート1～6を読み上げ、生徒はまず1と2の質問に答える 生徒個人のジェンダーバイアス(性別による固定的役割分担意識)を引き出す作業	説明後、質問を受け付ける	• どのような回答でも○であることを伝える • 他者との会話はNG
4分	生徒は3の質問について書き込む	3分以内で書き込むことを伝える	1位を付けたときの直感をそのまま書く
15分	グループ討議 • 生徒は生活班になり、リーダー1名を決めてから、4の①と②の討議を始める • 4の①の理由としての「母親だから」とか「父親だから」という意見はNGワードであることを伝える もし、「母親だから」という意見が多かった場合は、「母親だから○○○なので」と、誰が聞いても納得する意見を出す	班毎になるよう伝える	• 班の全員が、自分の記入したシートを基にして発言をする • 他者の意見は、絶対に否定してはいけない
10分	グループ発表 班のリーダーは結果を発表する	講師は、発表された意見を黒板に書きだす	
15分	まとめ 講師はワーク・ライフ・バランスについて伝え、生徒の意見を聞く(目的の確認) 生徒は、5と6に記入する	生活班から、机を元に戻すよう伝える 質問を受け付ける	

<中学生のためのワーク・ライフ・バランス>

学習シート

(年 組 氏名:)

1. あなたが、赤ちゃんのお世話に向いていると思う順番に順位(1～8)を付けて下さい。
 - ・おじいさん()・おばあさん()・おじさん()・おばさん()
 - ・おとうさん()・おかあさん()・お兄さん()・お姉さん()

2. あなたが、赤ちゃんを育てるために大切だと思う順番に、順位(1～8)を付けて下さい。
 - ・住居()・衣類()・健康()・思いやり()
 - ・愛情()・お金()・栄養()・スキンシップ()

3. 1の質問にて、あなたが1位を付けた人の「一番お世話に向いている理由」を教えてください。
 - ・理由は…

4. あなたのグループの意見をまとめてください。(グループ討議)
 - ①あなたのグループでは、赤ちゃんのお世話に一番向いていると思う人は誰ですか？
 - ・一番向いている人 []
 - ・その理由…
 - ②あなたのグループで考える、赤ちゃんを育てるために一番大切なことは何ですか？
 - ・一番大切なこと []
 - ・その理由…

5. 男女共同参画について、思ったことや感じたことを書いてください。

6. あなたは、赤ちゃんとの「ふれあい体験」で何を期待しますか？

静岡県東部女性犯罪被害者支援 link

「Me Too」のこれから・・・ 被害の潜在化の防止のために、出来ること 連携：一般社団法人 ひ・まわり ありまの会

【事業目的】

110年ぶりの性犯罪法改正、「me too」のカミングアウトなど被害者擁護が世間を賑わせましたが、果たして被害者を始め、私達全ての人々の安心・安全が担保されたのでしょうか・・・

そこで、被害の当事者で現在支援活動している佐藤氏と加害者の更生に携わる齊藤氏との対話により、現在の状況を把握し、改めて女性の権利は守られているのか、女性の権利

の保障はされているのか、社会やコミュニティで何が出来るのか、国会、行政で何が必要なのか、そして個人としての必要な事は何か・・・を考えていただき、これからのダイバーシティ社会に向け、被害の潜在化防止に繋げ、安心安全な、権利の守られる社会づくりへのメッセージを投げかける目的である。

【事業内容】

静岡県男女共同参画社会・あざれあ地域協働事業の一環として、女性の人権擁護、性犯罪被害防止啓発活動、多様性社会づくりの目的とした対話型講演会を実施。

対談者は当事者であり、女性と人権全国ネットワーク代表の佐藤かおり氏、加害者臨床の大森・榎本クリニック精神保健福祉士の齊藤章佳氏のお二人をパネリストとしてお迎えし、第1部はそれぞれの立場での現在の状況を講演。

第2部は当団体の磯部がファシリテーターとして、質問に沿ったそれぞれの立場による回答を頂くパネルディスカッションを開催。「me too」の声の潜在化のために、過去・現在を把握することによって、個人、地域、行政、教育、国会それぞれの現場・立場に必要な事は何かを問う主旨である。

『Me too』の声に必要な事は何か
～私だけではない～被害の潜在化の防止のために出来ること～

日時：2019年11月30日(土) 13:30～15:30
会場：三島市民活動センター(受付13:00～)
静岡県三島市本町3-29
メッセショップアークキッズのすぐ隣です。(JR東海道三島駅北口徒歩10分)

TEL/FAX 055-983-2099
参加費 無料 定員 60名

講師プロフィール

佐藤かおり氏
女性と人権全国ネットワーク代表
齊藤章佳氏
大森・榎本クリニック精神保健福祉士

お問い合わせ先
〒411-0001 静岡県三島市本町3-29 三島市民活動センター
TEL 055-983-2099 FAX 055-983-2099
Eメール link@h-mawari.com

実施日時	2019年11月30日(土) 13:30～15:30
実施場所	三島市民活動センター 本町タワー 4階
対象者	当事者をはじめ関係者 支援に関わる機関(司法・行政 相談支援員 地域活動の携わる方など) 教員、保護者など興味があるすべての方
参加人数	60名



佐藤さん



パネルディスカッションの様子



斉藤さん



講師を囲んで

【事業の成果】

聴講者に対して、好反応な講演会となった。被害者×加害者臨床の相反する立場での対峙によって、固定概念の払拭または聴講者に新たな発見や意識改革に繋がる事が出来、主催はおおむね成功と実感しています。

また、linkの周知の強化となり、今後の活動の弾みになると思われます。

【今後の展望】

聴講者の声に応えるべき、第2弾を行う事がlink周知及び活動の加速に繋がると考えられます。

スタッフのモチベーションを高めると同時に、更に団体の拡張、スタッフや活動のステージアップと団体の構築化が具体性を帯びてきたように感じています。

被害者支援の救済組織化、スタッフの拡張と共に育成、安定した財政の確保に向け、団体自体の目標、実施内容の明確化が見えてきたのではないかと考えております。

静岡県東部女性犯罪被害者支援

link アンケート

1. あなたの年代をお聞かせ下さい
・10代 20代 30代・40代・50代・60代・70歳以上
2. どちらからいらっしゃいましたか
・静岡県内 () ・静岡県外 ()
3. あなたの職業を教えてください ()
4. 今回の講演会を知ったきっかけを教えてください
・口コミ ・チラシ ・SNS ・その他 ()
5. 講演会の参加理由を教えてください
6. 今回の講演会で、印象に残ったことは何ですか
7. 今後、講演会で取り上げてほしいテーマ・内容があれば、お書き下さい
8. 今回の講演会のご感想などがあれば、お書き下さい
9. 気になる問題はどれですか？（○はいくつでも可能）
・母子家庭、父子家庭 ・子どもの貧困 ・ワンオペ育児 ・父親の育休
・性暴力 ・DV ・セクハラまたはパワハラ ・虐待
・障害者との関わり ・母娘問題 ・人権 ・LGBT ・いじめ
・防犯 ・その他 ()
10. 何かご意見がありましたら、お書き下さい。

ご協力頂き、ありがとうございました。

静岡県東部女性犯罪被害者支援

link

令和元年 11 月 30 日

『Me too』の声に必要な事は何か

～私だけではない…被害の潜在化の防犯のために出来ること～

プログラム

第 1 部 13:30～

1. 開会あいさつ・・・静岡県東部女性犯罪被害者支援 link 副代表 高田 康子
2. 来賓あいさつ・・・NPO 法人あざれあ交流会議理事 金井 淳子氏
静岡県三島署 生活安全課 下野 浩一氏
衆議院議員 細野 豪志 氏
3. 講演・・・「なぜ性犯罪は繰り返すのか、加害者の心理と性依存症について」
大森榎本クリニック精神保健福祉部長 齊藤 章佳氏
「わたしは一人じゃなかった 痛みをちからに」
暴力禁止法をつくろうネットワーク運営委員他 佐藤 かおり氏

10 分休憩

第 2 部 パネルディスカッション 14:40～

『Me too』の声に必要な事は何か 被害の潜在化を顕在化に

被害者・加害者の現状を通して、未来に向け求められる取組み・支援

齊藤 章佳氏 × 佐藤かおり氏

ファシリテーター：静岡県東部女性犯罪被害者支援 link 代表 磯部 三恵

15:15～15:25 質疑応答

15:25～15:30 閉会あいさつ

三島市議会議員一期生 静岡県東部女性犯罪被害者支援 link 顧問 石井 真人

主催：静岡県東部女性犯罪被害者支援 link

特定非営利活動法人
Safety First 静岡

女性に対する暴力の被害者を支援する
相談員養成講座

連携・協働団体：Linkers Shizuoka

【事業目的】

女性に対する暴力は、犯罪となる行為をも含む重大な人権侵害であり、その根絶を図ることは、男女共同参画社会を形成していく上で克服すべき重大な課題です。平成13年のDV防止法施行以降、2回の改正を経て、DV被害者支援体制は一定の前進が図られてきましたが、女性に対する暴力はDVだけでなく、レイプや強制わいせつ、セクシュアルハラスメント、過去の虐待被害など多岐にわたり、

それらすべてを取り締まる法律は未だ制定されていません。

近年、「# MeToo」運動や性犯罪にかかわる刑法改正など、性暴力被害に対して国内外問わず関心が高まっていますが、その一方で被害者が早期に相談できる窓口や、支援のスキルを持った人材は大変少なく、支援者の育成は急務となっています。国は第4次男女共同参画基本計画において行政が関与する性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ

女性に対する暴力の被害者を支援する相談員養成講座

 DVや性暴力は、被害者のこころから深く傷つけ、人間としての尊厳を脅かす人権問題です。だからこそ、被害にあつた人のそばには、被害者にあつた方の方を信じ、寄り添い、ともに解決策を考え、適切なサポートができる支援者が求められます。この講座では、DVや性暴力に関する基礎知識やスキル、支援の姿勢を学んでいきます。

現在、DVや性暴力被害者支援に関わっている方、これから関わりたいと考えている方など、幅広い方々の参加をお待ちしています。

月日	時 間 (会場)	講 座 内 容
11/9 (土) 静岡男女共同参画センター あざれあ	13:00-16:30	公開講座「なぜ逃げられないのか —性犯罪の被害者心理への理解を深めるために—」 ※即性暴力被害者ワンストップ相談支援センター スーパーバイザー フェミニストカウンセラー 岡崎 由美子さん
11/16 (土) 静岡市社会福祉会館 アイセル21	13:00-16:30	「性暴力被害者支援の現場の状況について」 静岡県弁護士会認定被害者支援委員会 岡野 富貴さん (弁護士) 日本赤十字社静岡赤十字病院 橋本 美子さん (産婦人科医)
11/30 (土) 静岡男女共同参画センター あざれあ	10:00-16:30	午前：「女性の悩みとジェンダー」 午後：「ジェンダーワークー内面化するジェンダーに気づく」 静岡女子大学教授・フェミニストカウンセラー 小柳 茂子さん
12/14 (土) 静岡福祉社会福祉会館	10:00-16:30	午前：「DV・デートDVとは」 午後：「性暴力被害とは」 特定非営利活動法人 Safety First 静岡 フェミニストカウンセラー 橋本 由美子・宮原 真由

対 象 : DVや性暴力被害者を地域で支援する活動を目指す女性
定 員 : 30名
参 加 費 : 無料 (資料代1,000円)
申し込み : 特定非営利活動法人 Safety First 静岡まで、必要事項をご記入の上、FAX、メールにてお申し込みください。詳しくは募集をご確認ください。

主催：特定非営利活動法人 Safety First 静岡 (あざれあ地域協働事業)

【会場のご案内】 ※ご参加の際は、公共交通機関をご利用ください。

●静岡男女共同参画センター あざれあ
(静岡駅北口から徒歩8分)
〒422-8063
静岡市駿河区奥浜1-17-1
TEL: 054-255-8440

●静岡市女性会館アイセル 21 (静岡駅北口から徒歩30分、又は静鉄バスアイセル21下車)
〒420-0865 静岡市東区
東原町3-18
TEL: 054-248-7330

●静岡福祉社会福祉会館 (静岡駅北口から徒歩18分)
〒420-8570
静岡市東区駿河町1-70
TEL: 054-254-5248

【申込み・問合せ先】

特定非営利活動法人 Safety First 静岡
〒420-0044 静岡市東区西門町3-11-3 03
FAX: 054-255-3805 E-MAIL: safety_first_shizuoka@yshoo.co.jp

特定非営利活動法人 Safety First 静岡 (セーフティー ファースト シズオカ)

女性と子どもに対するあらゆる暴力の根絶と、すべての人たちが安心して安全に生活できる社会の実現を目指し、2009年にNPO法人格を取得。フェミニスト・カウンセリングの拠点に立ち、女性相談事業や支援者養成事業、啓発事業などを行う。啓発事業の一環として、若い世代向けには、県内の中学・高校・専門学校・大学等で、デートDV防止啓発講座を実施。広く一般に向けては、バーチャルサイン・プロジェクトを実施している。ホームページは sfshizuoka.com/

【申込み締切】 2019年11月5日(火)必着

【受講申込書】

※Eメールの場合は、必要事項をご記入いただければ、申込書の添付は不要です。

氏 名 (ふりがな)			
住 所			
電話番号 (FAX番号)	E-mail		
所属先			
志望動機			

※ご記入いただいた個人情報は、本講座の参加者管理のみに使用し、その他の目的には一切使用しません。

プ支援センターを平成32年までに各都道府県に最低1か所は設置するとの成果目標を掲げ、静岡県でも平成30年7月に性暴力被害者支援センターSORAが開設されました。県内に性暴力専門に対応する相談窓口ができたことは大きな前進と考えられますが、東西南北に広がる静岡県の地勢を考えると、県内に相談窓口が一つでは不十分であり、各地域に相談場所や支援のスキルを持った人材が必要です。性暴力やDVの相談は、正しい知識や情報を持つ相談員でないと、二次被害を与えてしまい適切な対応ができないと言われています。被害者が安心して相談できるよう

DVや性暴力に関する正しい知識とスキルを持った相談員を養成する必要性が高まっています。そのような現状を鑑み、県内どの地域でも、被害者が二次被害を受けることなく、安心して支援を受けられるよう、男女共同参画の視点を持ち、DV被害者や性暴力被害者の相談に対応できる人材を育成することを目的に実施しました。

【事業内容】

- ①「女性に対する暴力の被害者を支援する相談員養成講座」全4回を実施した。
- ②講座終了から約1か月後に、受講生を対象にフォローアップ講座を実施した。

講座	日時	会場	人数
第1回(公開講座)	11/9(土) 13:00～16:30	あざれあ 502会議室	23名
第2回	11/16(土) 13:00～16:30	アイセル 研修室	16名
第3回	11/30(土) 13:00～16:30	あざれあ 第2研修室	18名
第4回	12/14(土) 13:00～16:30	あざれあ 502会議室	23名
フォローアップ講座	1/25(土) 13:00～16:30	あざれあ 第1会議室	8名

【講座内容】

①「女性に対する暴力の被害者を支援する相談員養成講座」全4回

《第1回》

(内容) 公開講座

「なぜ『逃げられないのか』～性犯罪の被害者心理への理解を広げるために～」

講師：京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター京都SARAスーパーバイザー、



11月9日

フェミニストカウンセラー、ウィメンズカウンセリング京都 周藤由美子さん

《第2回》

(内容)「性暴力被害者支援の現場の状況について～産婦人科医療の現場から」

講師：日本赤十字社静岡赤十字病院産婦人科医 根本泰子さん

「性暴力被害者支援の現場の状況について～法律の観点から」

講師：静岡県弁護士会犯罪被害者支援委員会委員長 菅野雄児さん



11月16日

《第3回》

(内容)「女性の悩みとジェンダー」
「ジェンダーワーク～内在化するジェンダーに気づく」

講師：相模女子大学人間社会学部人間心理学教授 フェミニストカウンセラー 小柳茂子さん



11月30日

《第4回》

(内容)「ドメスティック・バイオレンス(DV)」「性暴力」

講師：特定非営利活動法人 Safety First 静岡 フェミニストカウンセラー 宮城島真理 横山由佳子



12月14日

②フォローアップ講座の実施

《フォローアップ講座》

(内容) ジェンダーワーク

①「女らしさ・男らしさの思い込み」について

の自己チェック

②「DV神話」「強姦神話」「家族神話」と私たち

③ 振り返りと話し合い

ファシリテーター：特定非営利活動法人 Safety First 静岡 フェミニストカウンセラー 横山由佳子



1月25日

【事業の成果】

「女性に対する暴力の被害者を支援する相談員養成講座」第1回では、京都性暴力被害者ワンストップ相談支援センター京都SARAのスーパーバイザー周藤由美子さんをお迎えし、公開講座「なぜ『逃げられないのか』～性犯罪の被害者心理への理解を広げるために～」を講演いただきました。性犯罪の被害者心理への理解を広げるための全国調査の結果をまとめた『なぜ逃げられないのか―継続した性暴力の被害者心理と対処行動の実態』（NPO法人日本フェミニストカウンセリング学会発行）の冊子を参考に、性暴力被害者の心理状態やその後遺症について学びました。性暴力被害では、特に「顔見知り」からの被害の場合、被害をなかなか告発することができず、警察に訴えたとしても暴行・脅迫の客観的な証拠がなければ事件化が難しいとして、被害届を受け取ってもらえないこともよくあります。また、加害者を相手取った民事裁判を起こしても、「なぜ逃げなかったの

か」「なぜ抵抗できなかったのか」などと、被害者の行動が裁判所の理解を得られず、被害者が不利になってしまうこともしばしばあります。講義の中で被害者心理を解説、分析していただきながら、調査報告書を読み解いていくうちに、被害者の一見「同意」しているかに見える行動の中に、性暴力被害を逃れようと必死に「抵抗」している様子が浮かび上がってきました。参加者のアンケートを見ると、『「なぜ逃げられない』という疑問が解けました。逃げられないのではなく、みんな逃げていたのですね。理解したくても理解してあげられなかったことの理解が深められました」「被害者の心理は予想外のこともあり、このような研修の場で被害者の心理を学ぶことで、二次被害も避けることができるのだと思いました」などの感想から、社会に根強く残る性暴力被害者の落ち度を責める風潮に染まらず、被害者に寄り添い、被害者心理を正しく理解しようとする支援者を育成するという目標は達成されたのではないかと思います。講義終了後にグループに分かれ、感想を話し合うことで、受講生の理解もより深まったのではないかと感じています。

第1回は公開講座のため、児童相談所の職員や社会福祉法人の職員など、相談業務以外にたずさわる参加者がいたことは、相談員養成の対象者とは違いますが、その方たちの業務上の支援対象者の中には性暴力被害を受けた方も多いのではないかとされるため、性暴力被害者心理を理解した職員が増えることで、被害者がより声を上げやすくなるのではないかと感じました。また、男性の参加者が2名いたことも、被害を受けるのは女性のみではないこと、性暴力被害を自分のこととして考える男性が増えることにつながるのではないかと感じました。

第2回は、「性暴力被害者支援の現場の状況について～産婦人科医療の現場から」「性暴力被害者支援の現場の状況について～法律の観点から」を、静岡県内で実際に被害者支援に取り組む医師と弁護士にご講義いただきました。性暴力被害という衝撃的なできごとは、個人の心を深く傷つけ、身体をも揺るがします。そして、個人の心や身体は他者との関係性の中で、また世代をこえて、様々な影響を社会や文化に及ぼしていきます。性暴力被害の根底には、社会に残る性差別の問題があること、そして刑法改正など、今後社会の問題として取り組んでいかななくてはならないことを、講座生の一人一人が深く心に落としていったように感じます。

第3回は、「女性の悩みとジェンダー」の講義後、「ジェンダーワーク～内在化するジェンダーに気づく」で、相談員として活動していくうえで、自分の中にあるジェンダー意識に気づくことができるよう、構成事例を使いグループで話し合いました。感想に「自分の中にある根深いジェンダーと社会からの影響、構造的なものとのからまりを実感でき、他の方のお話も聞けて視野が広がったと思いました」とあるように、自分の中のジェンダーに気付くことで、社会の中にあるジェンダーを意識するようになっていきます。相談員としては共感力、想像力が求められますが、そのためには、自分の中にある違和感に気付く



ワークショップの様子

ことが第一歩です。ワークを通して講座生の一人一人の中に、相談を受ける人になっていくための準備ができつつある様子がアンケートからうかがわれました。

第4回は、暴力被害の相談を聞くうえで最低の知識として知っておくべき、ドメスティックバイオレンスと性暴力被害についての講義を行いました。アンケートの回答からは、全4回の講義を受け、講座生の暴力に対する理解が深まったことが感じられました。また、「いつか何らかの形で被害を受けている人を助ける活動をできたらと思います」「将来、相談員になるのが夢になりました」という感想から、相談員養成に繋がる成果が得られたと考えています。

講座終了後約1か月後に実施したフォローアップ講座の参加者は、8名と少なかつたものの、「今回は参加できないが、次回のこのような機会があれば続けて参加したい」と連絡があった方が、参加者以外に3名いました。講座受講生27名のうち約30%弱の方が、今後も続けて相談員になるための勉強を続けていきたいと考えていることは、講座開催の大きな成果であるといえると考えます。

【今後の展望】

平成13年のDV防止法施行以降、2回の改正を経て、静岡県内でも、DVの相談窓口が各市町に設けられ、女性相談員の配置も進んできました。また、浜松市、静岡市、富士市にDVセンターが設置されるなど、DV被害者支援体制は一定の前進が図られてきました。静岡県性暴力被害者支援センターSORAの設置など、性暴力被害者がワンストップで支援を受けられる体制も整えられるようになりました。その一方、被害者が早期に相談できる窓口や、支援のスキルを持った人材は大変少なく、東西南北に広がる静岡県の地勢を

考えると、現在の相談体制は不十分であり、今後は、県内どの地域でも、DVや性暴力被害にあった方が、安心して支援を受けられるシステムの拡充がますます必要とされています。

今回の受講生27名の居住地を見ると、東部2名、伊豆1名、西部4名、それ以外は中部在住（志太榛原地区を含む）で、やはり地域の偏りが大きいことが明らかになりました。DVや性暴力に関する正しい知識とスキルを持った相談員が、県内どの地域にも存在し、被害者が二次被害を受けることなく、安心して支援を受けられるよう、DV被害者や性暴力被害者の相談に対応できる人材を育成する必要性を、一層強く感じました。今後も、男女共同参画の視点を持ち、被害者個人に寄り添いながら、社会の問題としてDVや性暴力の問題をとらえられる支援者をもっと増やしていくことが求められています。

Safety First 静岡としては、今後も、今回受講して下さった受講生の皆さんが、相談員として活動できるよう、フォローアップ講座を月1回程度の割合で開催し、さらに研修を続け、相談員として活躍できる人材を育成していく予定です。また、広く県内各地域に相談員が常駐し対応できるよう、定期的に相談員養成講座を実施し、人材の開発と育成を続けていきます。

被害者が声を上げやすくするためには、地域の中にDVや性暴力被害に対する理解者を増やしていくことも必要と考えます。そのためにも、できるだけ毎年DVや性暴力など、女性問題に関する公開講座を開催し、社会全体の意識を高めていくよう講演会の開催も続けていく予定です。

伊豆とこどもとわたし達

イライラから解放！ アンガーマネジメントで幸せママ

連携・協働団体：三島「親育ち」を応援する会、稲生沢保育園父母会、静岡県立下田高校、伊豆市ママスタッフ、静岡県立伊豆中央高校、伊豆市こども課

【事業目的】

アンガーマネジメントを学び実践することで、子育てやコミュニケーションの中で感じるイライラから解放され、幸せを感じながら子育てやコミュニケーションができるような人を増やす。

講演会に参加した人同士のコミュニティやピアグループ形成を促す。

地元のあらゆる年齢の子育て世代にも受けてもらうことで、より子育てしやすい地域環境をみんなで考える。

子どもの脳を守り子どもへの長期的な悪影響

を減らし、親子関係を改善する。(厚生労働省の愛の鞭ゼロ作戦)

【事業内容】

イライラや怒りと上手に付き合い、子どもやパートナーと良好な関係を築ける自分になることで、より充実した子育てができるようになるための講演会の開催。

講演会後の茶話会にて参加者同士の交流。

こんな人こそ支援が
必要なのでは？

0歳、3歳、6歳の三人の子ども連れて参加されていた女性

・大荷物をもって、一人をおんぶし二人の手をひいて、必死な顔をして会場に来ていた・上のお子さん二人はキッズスペース、一番下のお子さんを抱っこしながら参加・上のお子さんは「お母さんと遊ぶ」とお母さんと離れる事がなかなかできない・ひと時も大人しくしてくれない子どもを睨みつけるような目つき、反して周囲には気を使って「すみませんすみません」

ふりめくくアンガーマネジメントまつり伊豆
下田市・伊豆市・三島市 3会場で開催！

講演会

人生100年時代を しなやかに生きるために

イライラ・怒りを笑顔に変える感情の整え方・癒し方

子育て中の方・アンガーマネジメントに興味をお持ちの方
どなたでもご参加いただけます

【下田市】
1月11日(土)
13:30-15:30
会場：下田市稲生沢保育園
キッズスペース
無料(予約あり)

【伊豆市】
1月13日(祝日)
10:00-12:00
会場：伊豆市稲生沢保育園
キッズスペース
無料(伊豆市子育てママスタッフ限定)

【三島市】
1月13日(祝日)
14:30-16:30
会場：三島市民生涯学習
センター 講義室
www.misaki.ac.jp

【下田会場】
お申し込みはこちら
https://bit.ly/3Dap0AR

【伊豆会場】
お申し込みはこちら
https://bit.ly/3Dap0AR

【三島会場】
お申し込みはこちら
https://bit.ly/3Dap0AR

【伊豆とこどもとわたし達】
【お問い合わせ先】
追加：09070431506

【三島会場主催】
三島「親育ち」を応援する会
【お問い合わせ先】
m.quesada@gmail.com

講師 戸部浩美さん
東洋大学大学院
医学部保健学専攻
グローバルファンディング
リサーチセンター特任助教授

これまでの
参加者の声

「自分の心と感情や行動を振り返るだけで自分自身を癒すことができました。子育てのストレスを軽減し、自分自身を癒すことができました。自分の心と感情や行動を振り返るだけで自分自身を癒すことができました。子育てのストレスを軽減し、自分自身を癒すことができました。」

「自分の心と感情や行動を振り返るだけで自分自身を癒すことができました。子育てのストレスを軽減し、自分自身を癒すことができました。」

「自分の心と感情や行動を振り返るだけで自分自身を癒すことができました。子育てのストレスを軽減し、自分自身を癒すことができました。」

会場	開催日	会場	参加者		
下田市会場	令和2年1月11日	下田市稲生沢保育園	大人49名	子ども18名	計67名
伊豆市会場	令和2年1月13日	修善寺会館	大人33名	子ども15名	計48名
		合計	大人82名	子ども33名	計115名

【事業の成果】

参加者は20～70歳代の方々であった。ボリュームゾーンは30～40歳代で、参加者の3分の1程度の方が子連れであった。また夫婦で参加された方も数組いた。また保育園の先生方も10名程度参加していただけた。



キッズスペース_下田市会場

講演会は講演とワークショップ形式を取り入れられた内容で、参加者はワークショップに真剣に取り組む姿がみられていた。キッズスペース利用の方は、高校生の見守りで子どもたちが遊んでいる間、講演に集中して聞くことができていた。一部の子どもが小さくて離れられない参加者は途中で離席せざるを得なかった。

参加者の声として多くの気づきがあり、その気づきで自分を癒せたり子どもやパートナーとの関わりがより良好なものになるような行動を考える事ができたという方が多かった。また時間の経過とともに気づきの実践が難しくなる、また講演会を聞きたいとの声も多く聞かれた。

1月中に開催予定の振り返り・シェア会はインフルエンザ等のため中止となっている。

9. 今後の展望：

参加できなかった方からは「参加したかった」との声を頂いている。また参加者からは「またやって欲しい。振り返りやシェア会をしたい。」との声を頂いた。

そのためまた開催したり、継続して学びを深められるような振り返りやシェア会を行っていききたい。その際は子育て中の方がより集中して講演会をできるよう託児を行えるようにしていきたい。

当初予定していた参加者数より、かなり少ない参加者数であった。これは広報方法もひとつの原因だと考えている。広報活動として主にチラシ配布を行った。(下田市・南伊豆町の幼・保育園、小学生の全員、伊豆市・伊東市・東伊豆町・河津町・松崎町・西伊豆町の幼・保育園の全員、各市町村の子育て支援センター・図書館。) 時期は申し込み開始前後1週間、開催の約1か月前に配布した。1か月前の配布のため、チラシの存在や開催日時を忘れていた方や、チラシをみて参加した



キッズスペース_伊豆市会場



講演会 _ 下田市会場

かったが参加できなかったとの声があがっている。

対象者は子育て世代の方々その他、虐待・疾病など同じ悩みを持つ方々にも広げて、ピアサポート、ぴあエデュケーションの機会にもしていきたい。これは今後講師の戸部浩美さんが作成予定のワークブックを使用するなど、より自分たち・地域の力でお互いに助け合えるようにしていきたい。

【その他】

参加者の声

30歳代 女性 子ども一人

講演会直後「参加できて良かった。怒りの原因があることがわかったので、これからはネガティブな第一感情を認めて爆発させないようにしたい。」

講演会后2週間「講演会後はできると思ったけど、やっぱり日が経つと薄れていってしまう。」

30歳代 女性 子ども二人

講演会直後「大人になってからのてんかんの理由がわかった。これまで色々な病院にいて脳の変形の原因がわからなかったが、戸部先生の話聞いて小さい頃に受けていた虐待のせいだとわかり、すごく良かった。これからもっと学んで行きたい。」

講演会2週刊後「あれから講演会中に紹介された本も読んでみた。今は理解を深めていって、抜け出してきている事が実感できている。これから変わって行くと思う。」

40歳代 女性 子ども三人（今回二回目の参加）

講演会直後「また先生のお話が聞けて勇気づけられた。今は赤ちゃんがえりしている次男との関わりに悩んでいたのも、また今日から子どもを受け止めていけるよう頑張れる。前回とまた違った角度で話を聞くことができたので、また何回もお話を聞きたい。」

30歳代 女性 子ども二人

講演会直後「アンガーマネジメントということばだけだと、すごく難しく、限られたお母さんしかできないと思っていましたが、戸部先生のお話を聞いてできることからやってみようと思いました。」



講演会 _ 伊豆市会場

Win-Win プロジェクト

50歳からの生き方・働き方

共催：菊川市市民協働センター
協力：菊川市

【事業目的】

男女雇用機会均等法が施行されて35年。男女を問わず働き続けることは当たり前になる中で、働き続けてきた「その先」に不安を抱く人たちが増えていることも事実です。

本事業では特に40～50代の女性を中心に、定年後の生き方に不安や迷いを持っている男性も交えて、これからの生き方のヒントを見つけてもらうことを目的に開催しました。

【事業内容】

いくつになってもカラフル&パワフルキャリアというキャッチコピーを体現する3人の年代別ゲスト（50代、60代、70代）をお招きしてのパネルトークと質問タイム、後半は、参加者にも人生を振り返っていただくワークに挑戦してもらい、その後、ゲストを交えての交流会の3部構成としました。

【実施日時】

令和2年1月13日（月・祝）

いくつになってもカラフル & パワフル キャリア

50歳からの生き方・働き方

「人生100年時代」、人生の折り返し地点を巡って
これからの可能性を一緒に考えましょう!

参加無料!

これまで、仕事や子育てに無数夢中だったという方も、これからの人生は「自分が主役、リタイア後も、子育ても、自分らしく生き抜くためには、何が必要でしょうか? 50代、60代、70代で自分らしく生きる先輩たちの豊富なトークに、その秘訣が見つかるはずです。

日時 1月13日(月・祝) 13:30～16:00 (13:00開場)

場所 菊川市市民協働センター
(菊川市堀之内9-7 菊川市役所直轄1階) 菊川駅西口徒歩5分

対象 50歳からの生き方・働き方に興味がある方・地域でネットワークを作りたい方等

定員 30人(先着順) **申込方法** 申込み詳細は裏面をご確認ください

Guest Speakers

司会・働き手 橋本 恵子(Win-Winプロジェクト)
こたのほステア代表・キャリアコンサルタント

佐藤 和枝さん
株式会社エーエスエーの社長、主婦から起業、会社経営しながら、社会人大学院で学びを深め、社会起業家の育成などに力を入れる。

山田 邦彦さん
特別支援学校高等学級教員、学習障害ランディア、キャリア支援員! 事業を生かして多岐に活躍。

橋谷 和代さん
菊川市議会議員、JAには2年勤務後、87歳で独立。人材育成・開発のプロフェッショナル、JAの女性営農支援員。

理想像がない...
このまま働き続けて
いいの?
定年後は?
年金受給は70歳?
人生100年時代

カラフル & パワフル
キャリアに!

当日のスケジュール

13:30～14:30	パネルトーク
14:30～14:45	質問シート記入
14:45～15:15	質問タイム
15:15～16:00	交流タイム

お申し込み お名前・年齢・住所・電話番号・パネルトーク希望者に聞いてみたいこと(あれば)を書いてお申し込みください。
菊川市市民協働センター
メール | kikacent@sage.ocn.ne.jp FAX | 0527-35-2220

お問い合わせ Win-Win プロジェクト 橋本 メール | info@kototaku.com

▼FAXお申し込み用紙

お名前	年齢
住所	〒
電話番号	
聞いてみたいこと(あれば)	

【主催】 Win-Winプロジェクト 菊川市市民協働センター 【協力】 菊川市

13:30～16:00

【実施場所】

菊川市市民協働センター

【対象者】

30人



講座の様子



講師のみなさん

【事業の成果】

参加者の半数が菊川市民だったが、半数は市外からの参加だった。3連休の最終日にも関わらず、当日のキャンセルも数人程度で、参加者の意欲の高さも伺えました。

タイトルの「50歳からの」に魅かれて参加したという方も多く、こうした年代に特化した事業のニーズも感じました。

アンケートの結果、満足度（大変満足、満足という回答）は100%で、感想も、当事者として前向きなコメントが多く、当初の目的だった「これからの生き方のヒント」に充分繋がったと思えます。これも3人の

講師が、それぞれの人生を、時にユーモアを交えながらも、参加者に届く言葉で語ってくれたことが要因だと考えています。

共催の菊川市市民協働センターの日頃の活動による市民からの信頼も「場づくり」の

大きな力となりました。初対面の方が多かったにも関わらず、和気あいあいと対話が進んだことは、センターのおかげです。告知・集客に関しても大きなサポートをいただけ、



板谷さん

協働することの成果を感じることも出来ました。

【今後の展望】

今回の事業では「続編」を望む声も多く聞かれました。そこで、板谷講師が講座で紹介して下さった「ワクワクリスト」（ワクワクすることを100個書き出してみる）を、皆で書いてみるワークショップなどを、近く開催出来たらよいと思っています。

アンケートに、今後も情報共有を希望する方には「メールアドレス」を記載いただいたので、メールリストを活用しての情報発信も考えています。

また、参加者同士もSNS（FACEBOOK）などで繋がっている様子も見られました。記憶が新しいうちに、次の仕掛けを考えます。

【その他】

アンケート項目は、もう少し工夫が必要



佐藤さん

でした。また、参加者がキャリアチャートを描く時間では、グループによって盛り上がり温度差があったので、席替えや、自己紹介タイムなど、参加者をもっと巻き込む工夫を講じる必要があったと振り返っています。

一方で、交流会では講師の皆様方と参加者とのフリートークが弾んでいる様子も見られました。直にお話することで、勇気づけられたという方もいましたので、全体の雰囲気づくりにおいては、安心の場が提供できたのではないかと考えています。

収支決算については、交通費など、事前の想定からやや変動の大きかったものもありましたが、全体では予算の中で対応できました。企画費については、経費として計上は出来ませんが、アイデアや企画力も事業成果に大きく関わるところなので、計上できる仕組みがあってもよいかと思えます。

【アンケート結果】

いくつになってもパワフル&カラフルキャリア「50歳からの生き方・働き方」アンケート（抜粋）

◎参加者= 30名

◎アンケート配布= 30名 ◎アンケートを記載くださった方= 22名【回答率73%】

Q：最も印象に残ったことをお聞かせください

- ・年を重ねると、怒りと喜びを引きずることが少なくなったという講師のことば
- ・年齢を重ねるごとにゆるやかになることは本当だと実感した
- ・物事は考え次第でHAPPYになるんだということ
- ・学ぶこと、考えることが大事



山田さん

- ・ワクワクリストを作りたいと思った自分でキャリアチャートを描いてみたこと
- ・過去の意味づけは変えられる
- ・同じ方向を見る人と進めばいいということ
- ・志をもって、発信して、行動すること
- ・出来事は全て無駄ではないということに納得できた
- ・講師の方の前向きな姿勢
- ・講師がトップレベルのエリートではなく、良い意味で庶民的で印象が良かった
- ・キャリアはプラスすることではない、積み重ねることだけが目標ではない
- ・70代に負けている自分を認識したが、一緒に何か出来るきっかけ（共通点）も見つけられた
- ・志すとは、やってみたいというレベルで

も良いと思えて、励みになった

- ・自分の思いは全て、自分の自由になる
- ・イヤなことばかりを考えるのではなく、違う面から楽しいことを考えること
- ・50歳は、まだこれからだと気付くことが出来た
- ・面白いこと、新しいことは外に出掛けないと見つからないということ
- ・講師の方の行動力や言葉に、今後の人生の参考になることがありました
- ・キャリアオーナーシップという考え方
- ・抜けた自分を隠さないということ 3の線で行くのもOK

Q：講座の全体的な感想をお聞かせください（下記選択 自由記載）

大変満足＝10名 満足＝12名 どちらでもない＝0名 やや不満＝0名 不満＝0名

- ・良い理由を探す
- ・3人のキャリアチャートが参考になって満足した
- ・そういう考え方、生き方があるんだと思えたので参考にしていきたい
- ・この先に不安がなくなった（楽しい人生が待っている気がする）
- ・テーマがバラバラなようで、ちゃんとまとまっていたのが不思議
- ・これからの人生を、明るく考えられそう
- ・内にこもってはいはダメ！！外に飛び出そうと感じました
- ・講師の方の話は素晴らしかった、よい環境も大切だと感じた
- ・よいヒントがもられた
- ・人生は予定通りに運ばないことをよく理解できてよかった
- ・うきうき、わくわくを目標にしたいと思えたから満足

・元氣になれた

- ・「50歳から」というテーマが魅力的。母子で一緒に参加してともに考える機会となった
- ・ポジティブな考えに、元氣をもらえた
- ・気持ちが前向きになりました
- ・講師は年代、立場は違えど、とてもポジティブでよかった
- ・初めての参加でしたが、とても楽しく勉強になった
- ・実践してみたいと思うことが、いくつもあった

・ちょうど50歳になるタイミングで、素敵な生き方を聞いて、がんばろうと思えた

Q：今後、取り上げてほしいテーマ・内容を教えてください

- ・菊川を盛り上げられる力の集結
- ・100年人生を引き続き取り上げて
- ・おまかせ
- ・5Gなど高度なデジタル技術と人とのかわりなどの講座
- ・定年後の働き方
- ・50代、60代の出会いの場（婚活含む）
- ・連続講座
- ・ネットワークの作り方

★大満足が10名

満足が12名

参加者満足度 100%

60代



70代



50代



板谷和代さん (株)タンタピーバ共同創始者

JALに37年勤務後、57歳で独立。
人材育成・開発のプロフェッショナル。
JAL初の女性営業支店長としてウィーン支店長。
稲盛体制の下、人材育成でJAL再生をけん引する。
静岡市おもてなしコンシェルジュ講師など。

佐藤和枝さん
(浜松市在住)

株式会社クリエイション取締役。主婦から起業。会社経営しながら、社会人大学院で学びを深め、社会起業家の育成などに力を注ぐ。

山田邦彦さん
(磐田市出身・静岡市在住)

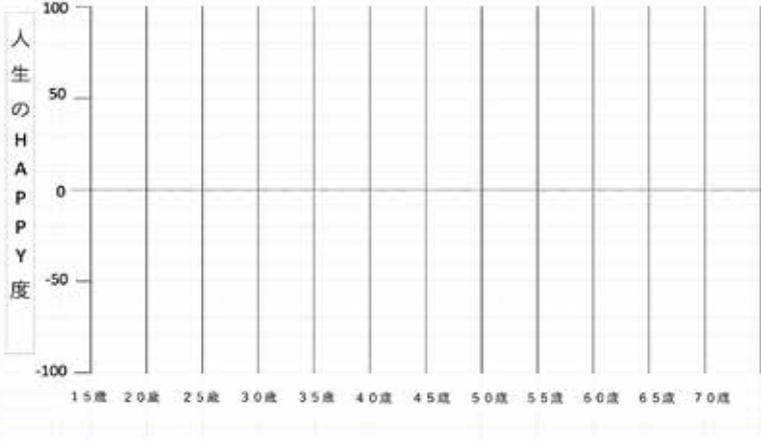
静岡サレジオ中・高等学校数学教師。
学習支援ボランティア、キャリア支援など、
本業を活かして多岐に活躍中。

聴き手: 橋本恵子 (キャリアコンサルタント/ここのはスクエア)

元静岡第一テレビアナウンス室長・Win-Winプロジェクト代表
昨春、50歳を機に退職。研修講師・朗読指導者として独立



キャリアチャートを描いてみよう



①直感でよいので、自分の人生のHAPPY度を曲線で記入する

②凹凸の目立つ箇所(山でも谷でもOK)に数か所をチェック

③思い出せる範囲で、何があったのかを記入

- ・出来事
- ・出会った人
- ・出会った言葉
- ・本、映画 など

静岡県委託事業
令和元年度あざれあ地域協働事業実績報告書

発行団体 特定非営利活動法人
静岡県男女共同参画センター交流会議
〒422-8063 静岡市駿河区馬淵 1-17-1
Tel : 054-250-8147/Fax:054-251-5085

発行 令和2年3月

**特定非営利活動法人
静岡県男女共同参画センター交流会議**